

令和4年度中野市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は長野県の北東部に位置し、自然に恵まれた地理的条件を生かし、果樹を中心に野菜、菌茸、水稻、花き、畜産等多様な農業生産が展開されている。

近年では、農業全般的に高齢化、遊休農地の増加、農産物価格の競争激化に伴う所得水準の不安定化等が急速に進んでおり、農業の持続的発展及び農業・農村の持つ国土保全・生活文化における多面的機能の発揮に資する施策を実施していく必要がある。

水田については主食用米の需要の減少、従事者の高齢化、作付戸数の減少が進んでおり、水田面積の維持を図るため他作物への作付転換を促進する必要がある。

転作作物として小麦、大豆については年々作付面積が増加しているところだが、アスパラガス・そばなどの作付けも推進し、産地交付金を有効に活用した産地づくりを目指す。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

これまで進められてきた適地適作を基本として、作物の生産維持を図るとともに、農業者の高齢化等により、生産規模の縮小が懸念されるため、収益性の高い作物の生産拡大を目指す。

本市において、アスパラガス、ぼたんこしょうは地域特産物であり、地域において収益力の向上に資する作物である。特に、信州の伝統野菜として認定されたぼたんこしょうについては、生産の拡大を目指し、生産推進と情報発信をすることで、継承発展と地域振興を図る。

また、市場から求められている果菜類(ズッキーニ、きゅうり、白ネギ)や花き品目(シャクヤク、トルコギキョウ、オミナエシ、スノーボール)の生産を推進し、生産拡大・収益性の向上を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田経営の複合化(米+α)の取組を進めるため、水田の畑地化を推進し、地域に適した複合的で収益性の高い園芸品目等への転換を図る。また、農家に対する意向調査等を行い、水田の利用状況の点検を行っていく。

農家への意向確認や地域関係者との協議を行い、関係機関・団体と連携のうえ、効率的な土地利用に配慮したブロックローテーション体系を構築し、生産性向上を図る。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

前年の需要動向や集出荷業者等の意向を勘案しつつ、需要に応じた計画的な米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減少、在庫量増加による米価下落を見込み、水田を維持しつつ、主食用米からの転換が容易であり、交付金収入により米価下落の影響を受けない飼料米への作付誘導を図る。

イ 加工用米

需要に応じた米生産のため、加工用米への作付誘導を図るとともに、実需者ニーズに対応するために、生産性向上に取り組む。

(3) 麦、大豆、飼料作物

水田転作作物及び畑作振興作物として麦、大豆の作付面積を増加する。また、基幹作の麦、大豆及び二毛作の大豆について、生産性の向上の技術(新品種の導入、高度施肥管理、汎用収穫機の利用技術、耕起・施肥・播種同時作業技術、排水対策)に取り組み品質の向上と生産量の増加を図る。

飼料作物については、輸入飼料の価格高騰により、畜産農家の経営を圧迫していることから水田を活用した自給粗飼料の作付を拡大し、自給粗飼料の安定確保と耕畜連携の推進を図る。

(4) そば、なたね

省力作物であることから、遊休荒廃農地を利用した作付を推進し、遊休荒廃地の解消を図り、汎用収穫機を使用した利用技術に取り組むことで、生産性の向上を図る。

また、未検査での流通が多いため、品質検査の受検を推進し品質向上と需要ニーズに応じた計画的な作付を図る。

(5) 高収益作物(野菜・花き等)

「2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標」と同様

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和5年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	453.704	－	438	－	435	－
備蓄米	0	0	0	0	0	0
飼料用米	0	0	0.8	0	1.2	0
米粉用米	0	0	0	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0	0	0	0
WCS用稲	0	0	0	0	0	0
加工用米	0	0	3	0	3.5	0
麦	3.52	0	4.4	0	4.6	0
大豆	5.627	2.251	8.5	5	9	5.5
飼料作物	2.136	0	2.3	0	2.5	0
・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0	0
そば・なたね	2.851	0	5.4	0	5.6	0
地力増進作物	0	0	0	0	0	0
高収益作物	3.06	0	9.5	0	15.2	0
・野菜	3.06	0	6.5	0	11	0
アスパラガス	2.92	0	3.2	0	5	0
ぼたんこしょう	0.14	0	0.5	0	0.5	0
ズッキーニ	0	0	0.3	0	1	0
きゅうり	0	0	1	0	2	0
白ネギ	0	0	1.5	0	2.5	0
・花き・花木	0	0	3	0	4.2	0
シャクヤク	0	0	2.7	0	3.3	0
トルコギキョウ	0	0	0.1	0	0.3	0
オミナエシ	0	0	0.1	0	0.3	0
スノーボール	0	0	0.1	0	0.3	0
・果樹	0	0	0	0	0	0
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
畑地化	0	0	0.1	0	1.5	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	アスパラガス、ズッキーニ、 きゅうり、白ネギ、 シャクヤク、トルコギキョウ、 オミナエシ、スノーボール 【基幹作物】	高収益作物への取組助成	対象面積（ha）	（R3年度）2.92ha	（R4年度）9.0ha （R5年度）14.7ha
2	ぼたんこしょう 【基幹作物】	ぼたんこしょうへの取組助成	対象面積（ha）	（R3年度）0.14ha	（R4年度）0.5ha （R5年度）0.5ha
3	麦 【基幹作物】	麦の生産性向上の取組助成	生産性向上技術導入面積 （ha） 単収（kg/10a）	（R3年度）3.52ha （R3年度）133kg/10a	（R4年度）4.4ha （R5年度）4.6ha （R4年度）210kg/10a （R5年度）220kg/10a
4	大豆 【基幹作物】	大豆の生産性向上の取組助成	生産性向上技術導入面積 （ha） 単収（kg/10a）	（R3年度）5.627ha （R3年度）115kg/10a	（R4年度）8.5ha （R5年度）9ha （R4年度）130kg/10a （R5年度）140kg/10a
5	そば 【基幹作物】	そばの生産性向上の取組助成	生産性向上技術導入面積 （ha） 単収（kg/10a）	（R3年度）2.754ha （R3年度）57kg/10a	（R4年度）5.4ha （R5年度）5.6ha （R4年度）75kg/10a （R5年度）80kg/10a
6	そば・なたね 【基幹作物】	そば・なたねへの取組助成	対象面積（ha）	（R3年度）2.851ha	（R4年度）5.4ha （R5年度）5.6ha
7	飼料用米 【基幹作物】	飼料用米への取組助成	対象面積（ha）	（R3年度）0ha	（R4年度）0.8ha （R5年度）1.2ha （R6年度）1.5ha
8	加工用米 【基幹作物】	加工用米への取組助成	対象面積（ha）	（R3年度）0ha	（R4年度）3.0ha （R5年度）3.5ha （R6年度）4.0ha
9	大豆 【二毛作】	大豆の生産性向上の取組助成	生産性向上技術導入面積 （ha） 単収（kg/10a）	（R3年度）2.251ha （R3年度）115kg/10a	（R4年度）5.0ha （R5年度）5.5ha （R4年度）130kg/10a （R5年度）140kg/10a